

・旧石器時代（約 32,000 年前）



出土したナイフ形石器

ナイフ形石器は、狩りに使うヤリのヤリ先として使用されたと石器です。奈良県と大阪府の境にある二上山で産出するサヌカイトで作られています。尼崎市で旧石器時代の石器が見つかるのはこれが初めてです。

・弥生時代後期（約 1,900 年前）



大型の竪穴建物を検出しました。直径 8.6m の円形で中央に炉跡があります。周壁溝が 2 条あることから、建て替えが行われたことが分かります。

ほかに、大型の土坑 (SK001) や掘立柱建物が分かっています。

竪穴建物 SH045

・古代（約 1,400 ~ 1,000 年前）



直径 1.8m の円形の井戸です。井戸底では一辺 0.9m の正方形の井戸枠が出土しました。方形横板組の構造となっています。

井戸 SE054

・室町時代（約 600 ~ 400 年前）



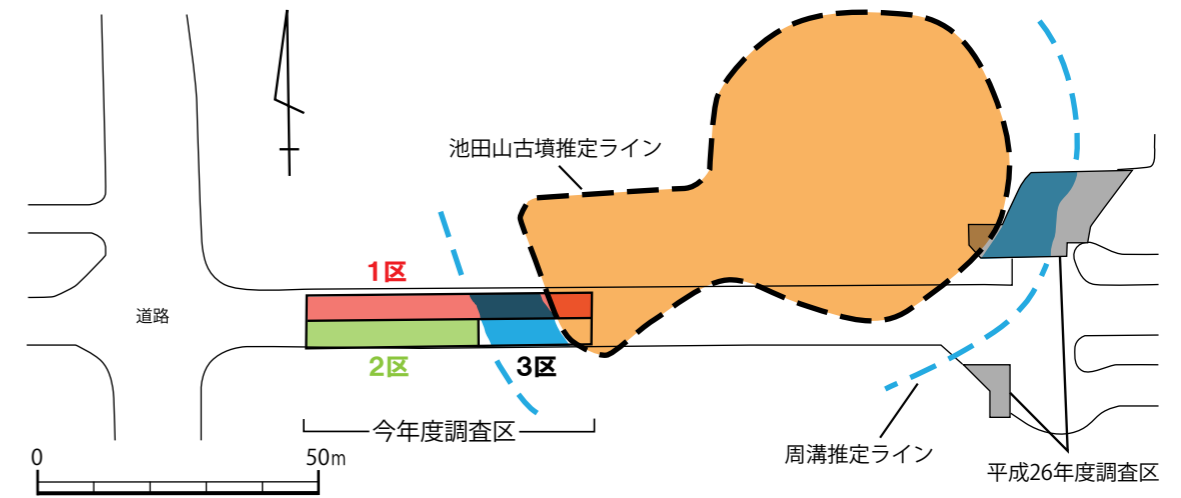
鏡埋納土坑 SX094 和鏡出土状況



菊花双鶴鏡

池田山古墳・塚口山廻遺跡が位置する尼崎市北部は、東の猪名川と西の武庫川に挟まれた伊丹台地の南端部にあたります。池田山古墳を取り囲む形で、集落遺跡の塚口山廻遺跡が立地しています。

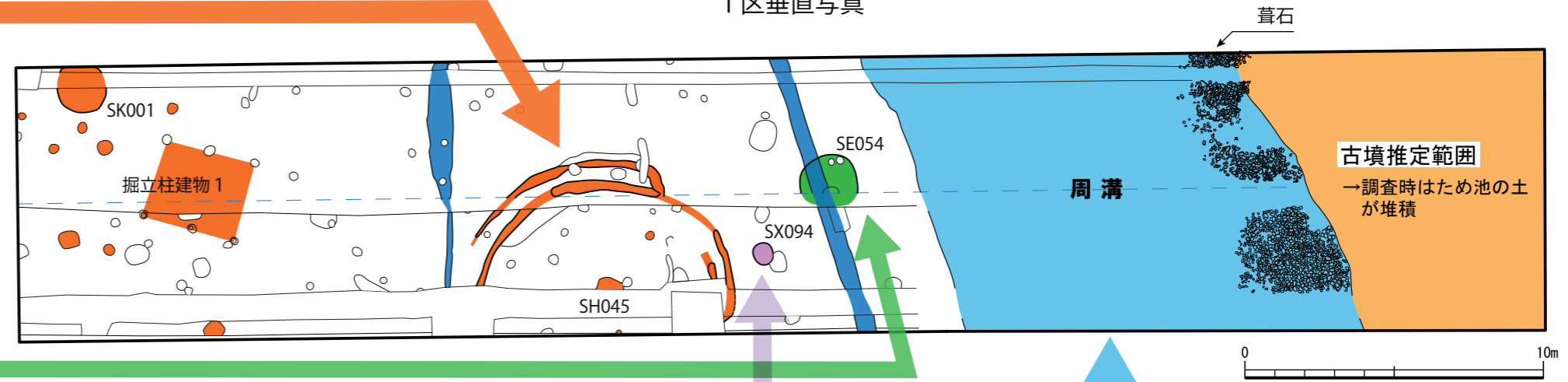
令和 6 年 4 月から 6 月に実施した発掘調査で、池田山古墳の周溝を検出しました。また、塚口山廻遺跡では、旧石器時代のナイフ形石器、弥生時代後期の大型竪穴建物、古代の井戸、室町時代の鏡埋納土坑などが分かりました。池田山古墳・塚口山廻遺跡が幅広い時代に利用されたことが明らかになるとともに、時代によって、多様な目的で使われたことが分かりました。



池田山古墳・塚口山廻遺跡調査区配置図



1 区垂直写真



調査区平面図

・池田山古墳（約 1,600 年前）



周溝の範囲



周溝に沿って転落した葺石

- ：弥生時代後期の遺構
- ：古墳時代の遺構
- ：古代の遺構
- ：室町時代の遺構
- ：近世以降の用水路